

議 事 録

会議名	町史編集委員会		
日 時	平成24年3月28日(水)15:00～17:00	開催形態	公開
場 所	寒川総合図書館会議室		
出席者	委員：圭室委員長、木村委員、鳥養委員、大口委員、内海委員 事務局：大久保館長、高木副主幹 傍聴者：なし		
議 題	(1) 平成23年度の刊行物について (2) 平成23年度の事業経過について (3) 平成24年度の事業計画について (4) その他		
決定事項	(1) 平成23年度刊行物の結果・経過について確認した。 (2) 平成24年2月末現在の23年度事業について確認した。 (3) 平成24年度予算で町史刊行事業が認められなかったことについて意見が噴出し、24年度補正予算で復活するよう検討することとなった。 (4) 会議録承認委員の決定		
議 事	<p>(1)平成23年度の刊行物について</p> <p>①町史研究第24号 ・刷り上がった冊子をもとに、内容を事務局より説明した。</p> <p>②調査報告書18「所信表明と施政方針」 ・編集がほぼ完了した原稿を回覧しながら、内海委員より構成や執筆した解説の内容や時代背景などについて説明をしてもらった。</p> <p>③絵はがき集1・2 ・内容や販売状況について、事務局より説明した。</p> <p>④文書館だより10・11 ・編集中の11号については、構成を事務局より紹介した。</p> <p>(2)平成23年度の事業経過について</p> <p>・資料1に従い、平成23年度事業の進捗状況について事務局より説明した。数字は平成24年2月末現在のものを用いている。3月末の数字をまとめ直して、結果結果報告を作成し、年報の原稿とする。質疑は特になかった。</p>		

(3)平成 24 年度の事業計画について

・平成 24 年度の文書館事業計画は、23 年 11 月 8 日に文書館運営審議会において決定し、これに基づいて予算編成を行ったが、査定の結果、認められなかった予算もあるので、予算に裏打ちされた事業計画を修正する必要性が生じた。資料 2 は 11 月の段階の計画、資料 3 は確定した予算に基づいて修正した計画案である。これに加え、平成 24 年度予算をまとめた表を配布し、修正点について事務局より説明した。

・修正の最も大きな点は、町史刊行事業の予算が認められなかった点である。これに対して、次のような意見が出された。

○町史刊行事業は、文書館の事業を外に向かって発信するために実施している。これを休止することになると、文書館の運営そのものが事業が停滞していると誤解される恐れがあり、町民に対しても外部に対してもマイナスのイメージを与えてしまう。

○公文書管理法が施行され、市町村にもこうした対応が義務づけられた。文書館の発行する刊行物は、その情報発信の手段としても位置づけられていたはずだ。このタイミングで同法に対して後ろ向きな態度を示すのは、行政としての姿勢やセンスが問われてしまう。

○寒川文書館の活動は、全国からも注目を集めている。町史編さん事業から公文書館へという流れは、小規模な市町村のお手本となっており、開館後 5 年たった今でも各地から視察に訪れている。今回の措置は、全国の動向に水を差すことになりかねない。

○今年の 5 月ごろ、入沢章家文書の寄託を受ける予定だが、『資料所在目録』第 4 集では明治期までの史料の目録しか載せていない。大正以降の史料も公刊することで、利用の便をはかるとともに、他の史料群を寄贈・寄託してもらおう呼び水になる。このように、目録の刊行も必要に応じて行うべきである。

○町史本編に盛り込むことができた史料は、ほんの一握りに過ぎず、これを補うため調査報告書を刊行し続けてきた。浜降祭日記、寒川神社日記など、刊行が途中のシリーズもあり、これを全うすることが所蔵者に対する礼儀である。

○刊行物を出すことが公文書館としての使命であり、それを行うことで社会的評価を得ることになる。藤沢市文書館でも、「藤沢山日鑑」を 20 年以上にわたり出

	<p>し続けている。継続することが評価につながるのである。</p> <p>○今年度に編集した調査報告書「所信表明と施政方針」は、歴代町長の施策の特徴をクリアに出すことができた。その中で鈴木貢町長は「歴史は町の財産」と述べている。せっかくの財産を自ら放棄する態度は極めて残念である。</p> <p>○町長が中身を精査して休止にしたというよりは、財政の担当者が単に数字合わせのために削ったという可能性が高い。中身を理解してもらうことはできなかったのか。</p> <p>○ある程度の削減はやむを得ないにしても、事業費全体をいったんゼロにすると、復活するためには相当のエネルギーが必要なので、何らかの形で予算を残し、事業自体の休止は避けるべきだったのではないか。例えば、刊行を先延ばしにする年があったとしても、講演会のテーブル起こしだけは継続して、来たるべき刊行に備えるといった方法もあったはずだ。</p> <p>○平成 24 年度の補正予算で、それが無理でも 25 年度当初予算で復活できるよう、ぜひ努力をお願いしたい。</p> <p>(4)その他</p> <p>○議事録承認委員は圭室委員長となった。</p>
資 料	
議事録承認委員及び 議事録確定年月日	圭室文雄委員 (平成 24 年 4 月 27 日確定)